

事務事業名		乳幼児学級開催事業		☐ 実施計画掲載事業 ☐ 総合戦略掲載事業	
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間	
	施策名	14 生涯学習の推進		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成元 年度～)	
	基本事業名	02 学習機会の充実		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
根拠法令				予算科目	
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課		会計	款
	課長名	熊谷善男		項	目
	係名	中央公民館	電話	26-3166	事業
	担当者	木川田舞	内線	432	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		・子育てや親子関係に関する多様な学習機会を提供し、家庭教育力の向上を図る事業。 ・中央公民館で、育児に関する講義や親子参加講座、親の心のゆとりを目的とした実技講習などを行う。また、講座受講中は、託児ボランティアの協力を得て、受講生の子どもたちの託児を併設する。 ・主な業務は、学習計画の立案、講師依頼、開級式・各学習会・閉級式の開催、謝金等の支払い等。 ・事業費は、講師謝金・旅費、事務用品代などに支出される。		全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円)	
				国庫支出金	
				都道府県支出金	
				地方債	
				その他	
				一般財源	
				事業費計(A)	0
				正規職員従事人数	
				延べ業務時間	
				人件費計(B)	0
				トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称 単位	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 講座開催回数 回	
講座の開設(6月から12月まで全12回、金曜開催) 主な内容は、子育てに関するワークショップや歯磨き講習、幼児食の調理実習等。		イ 延べ講座参加者数 人	
今年度計画(今年度計画している主な活動)		ウ	
講座の開設(6月から12月まで全10回、金曜開催) 内容は前年度と同様。			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		(6) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
4歳以下の子どもを持つ親等		名称 単位	
		カ 4月1日現在の4歳以下の子どもの数 人	
		キ 実講座参加者数 人	
		ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		(7) 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
乳幼児へのより良い接し方を学ぶ ※平成28年度実績までは、成果指標を「講座に参加して有意義だったと感じた保護者の割合」としていたが、29年度実績より「講座全体を通しての出席率」に変更する。		名称 単位	
		サ 講座全体を通しての出席率 %	
		シ	
		ス	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
学習意欲の啓発・向上がなされている。			

(2) 総事業費・指標等の推移										
			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円	243					
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円		172	173	230	230	230
			事業費計 (A)	千 円	243	172	173	230	230	230
	人件費		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2
			延べ業務時間	時 間	200	200	200	200	200	200
			人件費計 (B)	千 円	800	800	800	800	800	800
			トータルコスト(A)+(B)	千 円	1,043	972	973	1,030	1,030	1,030
⑤活動指標			ア	回	11	12	12	10	10	10
			イ	人	194	129	180	180	180	180
			ウ							
⑥対象指標			カ	人	1240	1217	1143	1150	1150	1150
			キ	人	25	20	21	20	20	20
			ク							
⑦成果指標			サ	%	71	55	71	70	70	70
			シ							
			ス							

事務事業ID	0868	事務事業名	乳幼児学級開催事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 家庭の中で子育てをしている親等が、子どもとの関係や子育てについて学び、子どもの健やかな成長に役立ててもらうため平成元年度より開始した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
 核家族化の進行に伴い、育児等の悩みを相談する機会が減少してきている等の理由から、本講座への関心が高い。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 受講生からは、大変有意義であったとの意見が寄せられている。関係者からも時代に即した良い事業であるとの意見をいただいている。また、託児ボランティアの増員についての要望がある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 親等が人間性豊かな子育てを学び実践していくことにより、豊かな心を育む人づくりに結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 親子が共に参加できる内容と、託児を実施し親が集中して学習できるような内容を織り交ぜた学習機会は他にない。また、受講生同士が講座終了後も連絡や相談をしながら受講経験を活かしている等、家庭教育力の向上に寄与できるものとなっており、妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 4歳以下の子どもを持つ親等を対象としており、運営内容等を見ても適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 受講者が欠席する理由の多くは子供の体調不良によるもので、本人の努力のみでは改善しにくい面もあることから、向上の余地はない。ただし、出席率の推移を注視し、必要に応じ適切な対応をする必要もあると考える。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 育児をしながら学習したいという市民の意欲に応えることができなくなる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 無料講師等を活用し、必要最低限の経費で実施しており、これ以上の事業費の削減は難しい。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 実質的に1人の職員が企画を担当し、他の職員が応援する形で事業を実施しており、これ以上の削減は難しい。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 教材費等は受益者負担としており、負担は公平である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果																					
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	受講者から大変好評を得ている事業であり、今後も継続して行う。平成30年度より実施回数を見直しを図るが、これまで同様に多岐にわたり、受講者に有意義な内容と感じていただける学習メニューを提供できるよう工夫していく。	左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 託児ボランティアが慢性的に不足していることから、協力をお願いできる団体等の掘り起こし・アプローチの手法を工夫し、次年度以降に繋がるように継続して働きかけていくようにする。		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	「託児ボランティアの不足」という慢性的な課題を解決しなければ、事業の継続が難しくなることから、ボランティアの掘り起こしに力を入れる必要がある。